

令和7年度 一般選抜後期 人間健康科学部看護学科 小論文

出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題の意図】

日本における2024年9月現在の高齢者人口は3,625万人で、総人口に占める65歳以上の人口割合の推移は、1950年(4.9%)以降一貫して上昇が続いており、2005年には20%を超え、2024年は29.3%と過去最高を更新した。2023年の平均寿命は男性が81.09歳、女性が87.14歳で、女性は世界一である。

日本は15年以上前より、総人口に占める65歳以上の人口割合が21%以上と定義される超高齢化社会を迎えており、この先もその割合は上昇が続くことが推計されている。それに伴う問題・課題として、「医療・福祉業界の人材不足」「社会保障制度の財政不足」「労働力減少による経済活動の鈍化」「高齢者のQOLの低下」「孤立による孤独死や認知症の進行」「高齢者の経済格差」等が様々なメディアを通じて報じられている。

看護学科のアドミッション・ポリシーとして、「人に関心があり、他者と尊重しあう価値観を備えている」「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる」を測るため、課題文を読み、超高齢化社会の問題に直面するであろう将来の担い手である若者が、高齢者の健康と生活について考える設問とした。

【解答の傾向】

設問1

多くの解答は、本文の内容を正しく読み取り、それを簡潔に記述できていたが、本文とは全く関係ない内容や受験生自身の意見のみを記述しているものもあった。

設問2

受験生自身の祖父母が実際に行っている事(例えば、定期的に運動を行っている、地域の行事に参加している、あるいは外出せず家にいることが多いなど)や居住地域の高齢者に対する自治体の支援について記述している内容が多くみられた。対策としては、高齢者に対してコミュニティ全体で支える、社会や他者と関わる機会をつくる、継続できる運動を提供して身体能力の低下を防ぐなどの記述が多くみられた。

一方で、本文の内容をふまえていない解答や受験生自身が将来、看護師や保健師になった時に「〇〇したい」「〇〇の支援を行う」などを記述している解答もあった。

解答の中には、文字数が8割に満たないもの、原稿用紙の使い方に不備があるもの、誤字脱字、文章表現が不適切なものもみられ、減点の対象となったものもあった。

第2問

【出題の意図】

看護学科のアドミッションポリシーである看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲及び基礎学力を備えているかを測るためと柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できているかを測るため、統計データからの読み取ることができるか、また論理的思考を問う目的で出題した。

設問1

本問題は、貧困率の推移に関するデータをもとに、データ分析力、社会課題への理解、課題解決力の3点を評価・育成することを目的としている。まず、図から「大人が一人の世帯」と「二人以上の世帯」の貧困率の違いやその変化を、具体的な数値を用いて正確に説明する力を問う。次に、日本におけるひとり親世帯や単身世帯の貧困率の高さを踏まえ、その背景にある社会構造や経済的要因について考察する力を促す。さらに、なぜそのような推移となったのか、どのような対策が必要かといった問いに対して、自ら考え提案する課題解決力を養うこともねらいとしている。単なるデータの読み取りにとどまらず、社会的視点と論理的思考を総合的に活用する力を評価する構成である。

設問2

本問題は、統計データをもとに、母子世帯の経済的困難と社会課題への理解を深めることを目的とした。まず、「児童のいる世帯」と「母子世帯」の所得状況を比較し、収入の差や2018年と2021年の変化を読み取る力を評価する。また、母子世帯は稼働所得が低く、社会保障への依存度が高い点に注目させ、背景にある社会的要因を考察させる。さらに、必要な支援策を検討することで、課題解決力や社会福祉への関心を育む構成となっている。

設問3

本問題では、「子どもの貧困」改善に向けた具体的対策を多角的に考察する力を問うた。児童手当や就学援助の拡充による経済的支援、教育機会の均等化、保護者の就労支援に加え、地域による支援体制の構築を重視した。また、貧困の連鎖を防ぐため、成長段階に応じた包括的支援や関係機関との連携強化、継続的な実態調査と支援策の見直しを求めた。これらを通じて、課題の背景理解と実効性のある対策立案力の育成を図ることを目的とした。

【解答の傾向】

設問1

図1の数値を正確に引用し、世帯構成別の貧困率の違いや傾向を比較・分析し、原因を考察したうえで、具体的な解決策を提案する解答が多く見られた。

設問 2

表 1 の数値を正確に引用し、児童のいる世帯と母子世帯の所得や内訳を比較・分析し、母子世帯の貧困の原因とその解決策を考察する解答が見られた。

設問 3

図表の数値を正確に引用し、児童のいる世帯と母子世帯の所得や収入源の違いを分析し、母子世帯の貧困の原因と支援策を具体的に考察する解答が見られた。